

第1学年国語科 学習指導案

2013年12月5日(木) 5校時
1年2組(男子10名 女子11名 計21名) 本時6/14
授業者 橋村 乃子

1 単元名 いろいろなおはなしをよもう

教材名 「おとうとねずみ チロ」 (東京書籍1年下)

2 単元の目標

- 読んだ物語の中から1番すきなところを『おはなしハウスカード』に書くために、様々な物語の中から、興味のある物を選んで読もうとすることができる。(関心・意欲・態度)
- 人物の行動を中心に、お気に入りの場面を見つけながら読むことができる。
(C 読むこと (ウ))
- 場面の様子を想像しながら読み、更にいろいろな物語へと読み広げることができる。
(C 読むこと (カ))
- 物語を読んで1番すきなところを、主語と述語との関係に注意して『おはなしハウスカード』にまとめて書くことができる。
(言 イ (カ))

3 単元について

(1) 単元観

①本単元で取り上げる主な指導事項

小学校学習指導要領国語の第1学年及び第2学年「C 読むこと」の指導事項「ウ 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。」を取り上げて指導する。更に「C 読むこと」の指導事項「カ 様々な物語の中から、興味のある物を選んで読むこと。」につなげて指導する。

②単元を貫く言語活動とその特徴

「C 読むこと」の言語活動例「オ 読んだ本についてすきなところを紹介すること」を具体化した「自分の読んだ本の1番すきなところを『おはなしハウスカード』に書く。」という言語活動を位置づける。

ここで取り上げる『おはなしハウスカード』は、自分が選んで読んだ本の中のお気に入りの本の中から、1番すきなところを書いていくものである。並行読書を行うことで、児童は、様々な本の中から、自分のお気に入りの本を見つけていく。そして、その本の「1番すきなところ」とその理由、さらに登場人物に自分が言ってあげたいことを『おはなしハウスカード』に書くことで「場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと」(C 読むこと (ウ))を確実に実現できると思われる。

(2) 児童観

児童は、文学教材では、6月「かいがら」、7月「おおきなかぶ」で、場面の順序をとらえ、お話を楽しんで読むことができた。10月「サラダでげんき」では、登場する人物をとらえ、誰がどんなことをしたかに注意して物語を読んでいくことをねらいとして学習してきた。児童は、登場人物がしたこと目に向けて、だれが何を教えてくれたかを想像しながら読んだり、動物たちが出てくる順序を考えたりする学習を通して、自分の体験と重ね合わせながらお話を読むことが出来た。また、定期的に読書指導を行ってきたことで、本を楽しんで読む児童もふえてきている。しかし、読んで想像したことや考えたことを言葉で表現することが難しい児童が多い。

そこで、本単元では、会話や行動を手がかりにして、場面の様子を想像しながら読み、多様な表現や感じ方を知らせ、そして、自分の1番すきなところとその理由を表現できるようにさせたい。

(3) 指導観

第一次では、いろいろな物語を紹介し、物語文への興味・関心を高め、読書への意欲が持てる導入とする。そして、お気に入りの本を見つけ、その物語を読んで1番すきなところを『おはなしハウスカード』に書いて紹介しようという学習の見通しをもたせる。さらに並行読書ができる環境整備をし、読み広げへの興味・関心につなげていく。

第二次では、自分の1番すきなところを交流し、すきなわけを考え合う。子どもたちが選んだすきなところのわけを交流しあい、お互いの考えを聞き合うなかで、多様な表現や感じ方があることを知り、読書に対する興味・関心を持つことができるようにしたい。そして、児童が「考えたい」ことから焦点を絞り、その場面の人物の行動や会話を手がかりにチロの様子や気持ち想像させ、「1番すきなところ」を意識させていく。最後に、中心教材のまとめとして「おとうとねずみチロ」の1番すきなところを『おはなしハウスカード』にまとめ、読んで想像したことを自分の言葉で表す場を設定する。

第三次では、並行読書で読んだ本の中から、お気に入りの本の1番すきなところを『おはなしハウスカード』に書き、紹介し合う。自分の選んだお気に入りの本を『おはなしハウスカード』にまとめ、紹介するという言語活動を行うことで、紹介した後、友だちにその本を読んでもらい、そのカードの中に感想を入れてもらえることが喜びになり、次への読書に意欲がもてると考えられる。そのために、「1番すきなところ」を見つけ、その理由や登場人物へのメッセージを自分の言葉で伝えられるようにしていきたい。また、友だちが紹介してくれた『おはなしハウスカード』の本に興味をもち、自らその本に手を伸ばす時間も設定して意欲づけをはかる。そして『おはなしハウスカード』コーナーをつくり、今後の読書活動に生かす。本単元で学習した物語の楽しみ方を生かして読書活動の豊かさにつなげたい。

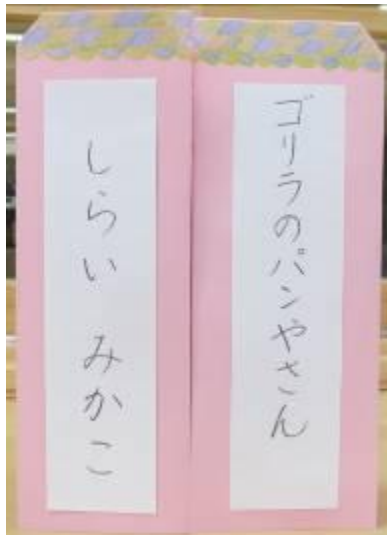
(4) 研究テーマとの関連

主体的に児童が学ぶためには、児童自身が単元を通した目的や、ゴールイメージをもって言語活動を進めていく展開にしていく必要がある。そこで、導入では並行読書の本を紹介し、教師が書いた『おはなしハウスカード』の例を見せることで、単元全体で付けたい力や流れを理解させ、言語活動の見通しをもたせたい。また、お気に入りの本の中の「1番すきなところ」について根拠（なぜそう思うか）を大切にしながら紹介するという言語活動を位置付けることで、主体的に場面の様子を想像しながら読む単元構成とした。この学習を通して、毎日の朝読書やひかりタイム等の帯タイム、さらに毎週1時間の図書の時間を活用し、並行読書をはじめ、これからも、いろいろな本を読んでもみようという意欲につなげていきたい。

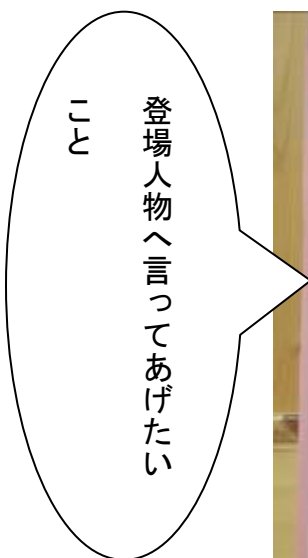
4 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	・いろいろな物語に興味を持ち、楽しんで読もうとしている。
読む能力	・人物の行動を中心に、場面の様子を想像しながら読んでいる。(ウ) ・様々な物語の中から、興味のあるものを選んで読んでいる。(カ)
言語についての知識・理解・技能	・物語を読んで1番すきなところを、主語と述語との関係に注意して『おはなしハウスカード』に書いてまとめている。イ (カ)

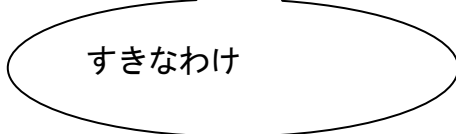
＜言語活動のモデル「おはなしハウスカード」＞



ここに、本を読んだ感想を入れ
てもらいます。



おはなしの中でいちばん
好きなところ



5 単元構想図

単元を貫く言語活動

場面の様子を想像しながら物語を読み、読んだ本の1番好きなところを『おはなしハウスカード』に書く。

◇学習の流れ

並行読書を取り入れる。

第一次

- 読み聞かせをして、「物語を読んで1番好きなところを『おはなしハウスカード』に書いて紹介しよう」という学習課題を設定する。
- 教材のめあてと学習の流れを確かめ、物語を読んで大まかな内容をとらえる。

第二次

- 自分の好きなところについて発表する。
- チロの行動や会話をとらえ、好きな場面の様子の想像を膨らませて読む。
- 1番好きなところを『おはなしハウスカード』に書く。

第三次

- 読んだ物語の1番好きなところを『おはなしハウスカード』に書く。
- 『おはなしハウスカード』に書いたことを発表する。
- 『おはなしハウスカード』コーナーを作り、みんなで読み合い、今後の読書活動に活かす。

◇意識の流れ

【児童の実態】

物語を楽しんで読む児童が多くなったが、好きな場面やそのわけを伝えることが難しい。

- ・いろいろな本を読みたいな。
- ・どんなことを『おはなしハウスカード』に書くのかな。
- ・3びきのねずみのきょうだいのお話なんだな。
- ・おばあちゃんから手紙がとどいたんだね。

- ・ぼくは、ここが、〇〇だから、1番好きだよ。
- ・最初は、気付かなかったけど、お友達の発表を聞いて、気付いたよ。
- ・チロは、こんな気持ちだったんだろうな。

- ・他のお話でも『おはなしハウスカード』を書いてみたいな。
- ・ぼくは、このお話のこんなところが1番好きだから友だちに紹介したいな。
- ・そのお話もおもしろそうだな。わたしも読んでみよう。
- ・本って、楽しいな。これからはいっぱい読んでみたいな。

単元で付けたい力

- ・人物の行動や会話を手がかりに場面の様子を想像しながら読む力。
- ・好きな本を選び、楽しんで読む力。

6 指導計画及び評価計画（全14時間）

	時	学習活動	主な評価規準
第一次	1	・「物語を読んで1番すきなところを『おはなしハウスカード』に書いて紹介しよう」という学習課題を知り、みんなに紹介するという学習への見通しを持つ。	【関】『おはなしハウスカード』に興味をもち、これからの学習に意欲的に取り組もうとしている。（発言・行動観察）
	2 ・ 3	・物語の大まかな内容を知る。	【読】物語の内容を大まかにとらえ、「おとうとねずみチロ」がどんなおはなしかを考えている。（発言・ワークシート）
	4	・自分のすきなところについて発表する。	【読】自分のすきなところを見つけて、そのわけを教えている。（発言・ワークシート）
第二次 (本時)	5	・おばあちゃんから手紙をもらったときのチロの様子を想像しながら読む。	【読】おばあちゃんから手紙をもらったときのチロの行動や会話に着目し、様子を想像しながら読んでいる。（国語日記）
	6 (本時)	・「いいこと」を考えたチロの様子を想像しながら読む。	【読】「いいこと」を思いついたときのチロの行動や会話に着目し、様子を想像しながら読んでいる。（国語日記）
	7	・チョッキが届いた時のチロの様子を想像しながら読む。	【読】おばあちゃんに呼びかけたときのチロの行動や会話に着目し、様子を想像しながら読んでいる。（国語日記）
	8 ・ 9	・1番すきなところを『おはなしハウスカード』に書く。	【読】「おとうとねずみチロ」の1番すきなところを『おはなしハウスカード』に書いている。（発言・おはなしハウスカード）
	10 ・ 11	・読んだ物語の1番すきなところを『おはなしハウスカード』に書く。	【読】物語の1番すきなところとその理由を『おはなしハウスカード』に書いている。（おはなしハウスカード） 【言】主語と述語の関係に気をつけて『おはなしハウスカード』を書いている。（おはなしハウスカード）
第三次	12	・『おはなしハウスカード』に書いたことを発表する。	【関】友だちの書いた『おはなしハウスカード』を読み合い、これからも読書を楽しもうとしている。（発言・行動観察・感想カード）
	13 ・ 14	・『おはなしハウスカード』コーナーを作り、みんなで読み合い、今後の読書活動に生かす。	【関】『おはなしハウスカード』を聞き、いろいろな本を読もうとしている。（発言・行動観察）

7 学習の展開

第一次 1時間目 (1/14)

- (1) 目標 物語の1番すきなところを『おはなしハウスカード』に書くという学習の見通しをもつことができる。

(2) 展開

主な学習活動と内容	指導上の留意点 (○) 評価 (☆) 支援 (※)
1 本時の課題をつかむ。	○『おはなしハウスカード』を見せ、学習への意欲づけをする。
『おはなしハウスカード』ってなにか？	
2 課題を解決する。	
(1) 教師の読み聞かせを聞く。	○読み聞かせを楽しんで聞き、『おはなしハウスカード』を書くという学習の見通しをもたせる。
(2) 教師自作の『おはなしハウスカード』の紹介を聞く。	☆『おはなしハウスカード』に興味をもち、これからの学習に意欲的に取り組もうとしている。
(3) 単元の見通しをもつ。	【関】(発言・行動観察) ※教師のモデルからイメージをもたせる。
(4) 並行読書について確認する。	○これからの並行読書の仕方について指導する(カードへの記入の仕方など)。
・1冊読みとおす。	○並行読書コーナーを設け、自由に読み進める環境を用意し、並行読書への意欲づけを図る。
・読み終わったらリストブックカードに○をつける。	
・お気に入りの本の題名に◎をつける。	
・1番すきなところのページ数を書いておく。	
4 次時の学習について知る。	○お話の大体を知ることを予告する。
家庭学習 物語の大体がわかるように全文を読んでこよう。	

第一次 2・3時間目 (2・3／14)

(1) 目標 挿絵をもとに、物語の大体を知ることができる。

(2) 展開

主な学習活動と内容	指導上の留意点 (○) 評価 (☆) 支援 (※)
1 単元のねらいと学習の流れを知る。 2 本時の課題をつかむ。 「おとうとねずみチロ」はどんなおはなしだろう。	
3 課題を解決する。 (1) 教師の範読を聞く。 (2) どんなおはなしを発表する。 ・ねずみの兄弟のおはなし ・森の中にすんでいるおはなし ・手紙がとどいたおはなし ・チロがチョッキをあんでもらうおはなし (3) 場面分けをする。 (4) 分からない言葉や読み方について確認する。	○登場人物に注意しながら聞くように指示する。 ○ () おはなし () の中に入る言葉を考え、ワークシートに書かせる。 ☆物語の内容を大まかにとらえ、「おとうとねずみチロ」がどんなおはなしを考えている。 【読】(ワークシート) ※挿絵を見ながら範読を聞かせることで、内容の理解の手がかりとさせる。 ○意味のわからないところや、読みにくい言葉を確認させる。
4 次時の学習について知る。 家庭学習 自分の好きな場面のチロを選んでみよう。	○お話の大体を学習したことをおさえ、次時は自分の好きなところを発表し合うことを予告し、1番好きなチロの絵に印をつけてくるようにする。

第二次 1時間目 (4/14)

(1) 目標 自分の好きなところを選び、発表し合うことができる。

(2) 展開

主な学習活動と内容	指導上の留意点 (○) 評価 (☆) 支援 (※)
1 全員で「おとうとねずみチロ」の全文を音読する。 2 本時の課題をつかむ。 じぶんの好きなチロをはっぴょうしよう。	○登場人物に注意しながら読んでいくように声をかける。
3 課題を解決する。 (1) 自分の好きなチロを交流し合う。 ・ペア学習で聞き合う。 ・全体学習で交流し合う。 (2) みんなの好きなところを聞いて、気のついたことを発表し合う。 (3) 国語日記を書く。	○挿絵を提示しながら、チロの表情や様子から、チロの好きなところを引き出すようにする。 ○人によって好きなところもいろいろ違っているということを感じとらせる。 ☆自分の好きなところを見つけて、そのわけを教えている。 【読】(発言・行動観察) ※自分の言葉で発表しにくい児童には、挿絵を利用させる。
4 次時の学習について知る。 家庭学習 手紙が届いた場面を音読してこよう。	○チロの気持ちを考えながら読んでくるように声をかける。

第二次 2時間目 (5/14)

(1) 目標 手紙を受け取ったチロの様子を想像しながら読むことができる。

(2) 展開

主な学習活動と内容	指導上の留意点 (○) 評価 (☆) 支援 (※)
1 単元のねらいと前時までの学習を思い出し、学習の流れを確認する。 2 本時の課題をつかむ。 てがみがとどいたばめんがすきなわけはなぜかな？	
3 課題を解決する。 (1) 音読をする。 (2) この場面がすきなわけを挿絵や会話を参考に考える。 ・おばあちゃんから手紙が届いたから ・チョッキを編んでくれるから ・好きな色で編んでくれるから ・「チロのはないのよ。」 ・「そんなことないよ。」 (3) 国語日記を書く。	○手紙の内容とうれしい気持ちをおさえる。 ○三匹の会話に着目して、チロがだんだん不安になっていった様子を想像させる。 ☆おばあちゃんから手紙をもらった時のチロの行動や会話に着目し、様子を想像しながら読んでいる。 【読】(国語日記) ※それぞれの会話文と行動に着目させる。
4 次時の学習について知る。 家庭学習 チロのようすやきもちをかんがえながら、つぎの場面をよんでこよう。	

第二次 3時間目 (6/14) 本時

(1) 目標 「いいこと」を考えたチロの様子を想像しながら読むことができる。

(2) 展開

主な学習活動と内容	指導上の留意点 (○) 評価 (☆) 支援 (※)
1 単元のねらいと前時までの学習を思い出し、学習の流れを確認する。 2 本時の課題をつかむ。 「いいこと」を考えたチロがすきなわけはなぜかな。	
3 課題を解決する。 (1) 音読をする。 (2) この場面がすきなわけを挿絵や会話を参考に考える。 ・ いいことを考えたから ・ 「おばあちゃん、おばあちゃん・・・。」 といたったから ・ こえがとんでいったから ・ 1ばんだいじなことをいったから (3) 国語日記を書く。	○ 「いいこと」を思いついたときのチロの行動や会話に着目し、自力で解決しようとするチロのがんばりをおさえる。 ☆ 「いいこと」を思いついた時のチロの行動や会話に着目し、様子を想像しながら読んでいる。 【読】(国語日記) ※それぞれの会話文と行動に着目させる。
4 次時の学習について知る。 家庭学習 チロの様子や気持ちを考えながら、次の場面を読んでこよう。	

(3) 評価規準

B 概ね満足できる状況

◆ 「いいこと」を考えたチロのすきなところを書いている。

- ・わたしは、「おばあちゃん、おばあちゃん・・・」と大きな声でおばあちゃんに聞こえるようにいっているチロがすきです。

A 十分満足できる状況

◆ 「いいこと」を考えたチロのすきなところとチロの気持ちを想像して書けている。

- ・わたしは、木の上に立って「おばあちゃん、おばあちゃん・・・」と大きな声でおばあちゃんに聞こえるようにいったチロがすきです。
わけは、じぶんもチョッキがほしいから、おばあちゃんにいっしょうけんめい知らせようとしているからです。

(4) 板書計画



第二次 4時間目 (7/14)

(1) 目標 チョッキが届いたチロの様子を想像しながら読むことができる。

(2) 展開

主な学習活動と内容	指導上の留意点 (○) 評価 (☆) 支援 (※)
1 単元のねらいと前時までの学習を思い出し、学習の流れを確認する。 2 本時の課題をつかむ。 チョッキがとどいたチロのようすやきもちをかんがえよう。	
3 課題を解決する。 (1) 音読をする。 (2) この場面がすきなわけを挿絵や会話を参考に考える。 ・チョッキが届いたから ・「しましまだ。だあいすき。」 ・「ありがとう。」 ・「あ、り、が、と、う。」 (3) 国語日記を書く。	○ほしかったチョッキが届いて喜んでいるチロの様子を会話や行動からおさえる。 ○チロの言葉や挿絵を参考にして、ほしかったチョッキが届いて並んでいるチロの様子や気持ちを想像して読ませる。 ☆おばあちゃんに呼びかけたときのチロの様子や気持ちを想像しながら読んでいる。 【読】(国語日記) ※なかなか考えにくい児童には、チロの言葉や挿絵を利用して、チロの行動に着目させる。
4 次時の学習について知る。 家庭学習 すきになった場面を読んでこよう。	

第二次 5・6時間目 (8・9／14)

(1) 目標 「おとうとねずみチロ」の1番すきなところを「おはなしハウスカード」に書くことができる。

(2) 展開

主な学習活動と内容	指導上の留意点 (○) 評価 (☆) 支援 (※)
1 単元のねらいと前時までの学習を思い出し、学習の流れを確認する。 2 本時の課題をつかむ。 『おはなしハウスカード』をかこう。	○
3 課題を解決する。 (1) 『おはなしハウスカード』の書き方を知る。 ・物語の題名 ・作者名 ・1番すきなところとそのわけ ・すきなところの絵 ・登場人物に言ってあげたいこと (2) 『おはなしハウスカード』を書く。 (3) すきになった場面を発表する。 ・ペア学習で聞き合う。 ・全体学習で交流し合う。 (4) みんなの好きな場面を聞いて、気の付いたことを発表し合う。	○自分の考えの根拠となる文を見つけ、さらに理由を付け加えて話しをさせるようにする。 ☆「おとうとねずみチロ」の一番すきなところとその理由を『おはなしハウスカード』に書いている。 【読】(『おはなしハウスカード』) ※自分で考えにくい児童には、ヒントカードを使って書かせる。 ○人によってすきなところやわけもいろいろ違っているということを感じ取らせる。
4 次時の学習について知る。 家庭学習 家の人に「おはなしハウスカード」をよんであげましょう。	

第三次 1・2時間目 (10・11/14)

(1) 目標 読んだ物語の1番好きなところを『おはなしハウスカード』に書くことができる。

(2) 展開

主な学習活動と内容	指導上の留意点 (○) 評価 (☆) 支援 (※)
1 単元のねらいと前時までの学習を思い出し、学習の流れを確認する。 2 本時の課題をつかむ。 お気に入りの本の中で1番好きなところを『おはなしハウスカード』にかこう。	
3 課題を解決する。 (1) お気に入りの本の1番好きなところを『おはなしハウスカード』に書く。 ・物語の題名 ・作者名 ・1番好きなところ ・好きなところの絵 ・登場人物に言ってあげたいこと	☆物語の1番好きなところを見つけて、『おはなしハウスカード』に書いている。 【読】(発言・『おはなしハウスカード』) ☆主語と述語の関係に気をつけて『おはなしハウスカード』に書いている。 【言】(『おはなしハウスカード』) ※自分で見つけて書きにくい児童には、人物の行動や会話に着目させて書くように声をかける。 ○書き終えたら、文字の誤り、語と語や文と文のつながりに注意させて読みかえしをするように声をかける。
4 次時の学習について知る。 家庭学習 お気に入りの本の『おはなしハウスカード』を読んでこよう。	○『おはなしハウスカード』を発表することを知らせる。

第三次 3時間目 (12/14)

(1) 目標 『おはなしハウスカード』に書いたことを発表する。

(2) 展開

主な学習活動と内容	指導上の留意点 (○) 評価 (☆) 支援 (※)
1 自分の紹介するカードを読む。 2 本時の課題をつかむ。 『おはなしハウスカード』をつかって、1番好きなのところをつたえよう。	○書いた内容を確認めながら読ませる。
3 課題を解決する。 (1) 『おはなしハウスカード』発表会をする。 ・発表の仕方を知る。 (2) 『おはなしハウスカード』をつかって、 1番好きなのところを発表する。 ・全体学習で交流し合う。 (3) みんなの好きなのところを聞いて、気の 付いたことを発表し合う。	○聞き手が分かりやすいように、声の大きさ やスピードに気をつけさせる。 ○自分の好きなのところとその理由を発表させ るようにする。 ☆友だちの書いた『おはなしハウスカード』 を読み合い、これからも読書を楽しもうと している。 【関】(行動観察・発言) ※友だちの紹介した本の中でどれを読んでみ たいか発表させる。
4 次時の学習について知る。 家庭学習 家の人に、今日友だちがしょう かいしてくれた『おはなしハウ スカード』の話をしよう。	○これからも読書を楽しみ、友だちの『おは なしハウスカード』に読んだ感想を入れて いくように声をかける。

第三次 4・5時間目 (13・14／14)

- (1) 目標 『おはなしハウスカード』コーナーを作り、みんなで読み合い、楽しんで読むことができる。

- ## (2) 展開

主な学習活動と内容	指導上の留意点（○） 評価（☆）支援（※）
1 単元のねらいと前時までの学習を思い出し、学習の流れを確認する。 2 本時の課題をつかむ。	
3 課題を解決する。 （1）『おはなしハウスカード』で紹介された本を読む。 （2）友だちの1番すきなところと、自分の1番すきなところを比べながら読む。	○『おはなしハウスカード』で紹介された本の中から興味をもって読みたい本を見つけてくる。 ☆『おはなしハウスカード』を聞き、いろいろな本を読もうとしている。 【関】（発言・行動観察・感想カード） ※友だちの書いた『おはなしハウスカード』を参考にして、読み進めさせる。 ○人によってすきなところやわけもいろいろ違っているということを感じ取らせる。
4 次時の学習について知る。 家庭学習 自分のお気に入りの本のすきなところを、お家の人に伝える。	○単元終了後も、『おはなしハウスカード』コーナーを引き続き設定しておくことで、今後の読書活動への意欲をもたせる。